

災害の特徴を知る

地震

「地震大国」である日本では、想定を超える規模の地震はいつでもどこでも発生しうると考えられており、橿形山脈断層帯付近では、将来、マグニチュード6.8程度の地震が発生することが想定されています。そこで、「地震は必ず起きるもの」ととらえ、いつ起きても安全に避難できるようにしておくことが重要です。

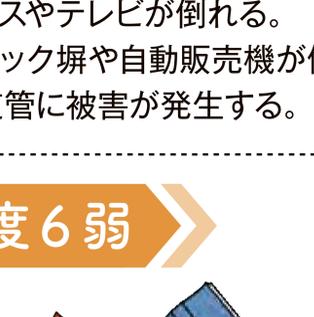
● 震度別の想定される被害 ●

震度4



- 歩行中でも揺れを感じる。
- 眠っていても目が覚める。
- 不安定な置物が倒れる。

震度5弱



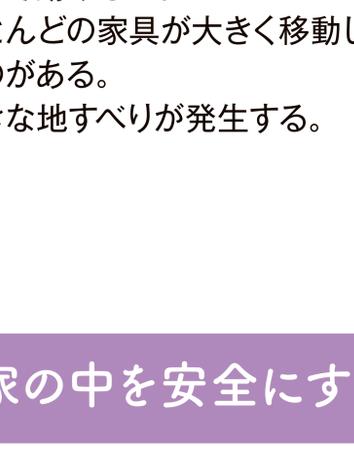
- 家具が動き、食器や本が落ちる。
- 窓ガラスが割れる。
- ガスが安全装置で遮断される。

震度5強



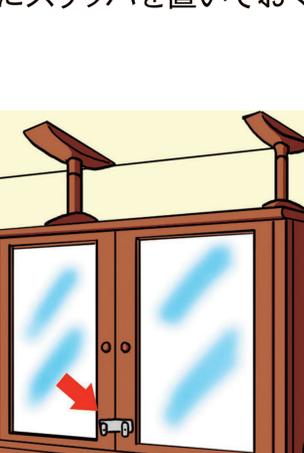
- タンスやテレビが倒れる。
- ブロック塀や自動販売機が倒れる。
- 水道管に被害が発生する。

震度6弱



- 立っていることが難しい。
- 家具の多くが移動し、倒れる。
- 一部の地域で電気・ガス・水道が止まる。

震度6強



- 立ってられない。
- 家具やブロック塀のほとんどが倒れる。
- 広い地域でガス・水道が止まる。

震度7



- 揺れで動けない。
- ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものがある。
- 大きな地すべりが発生する。

● 家の中を安全にする ●



【ガラス飛散対策】

- ガラスに飛散防止フィルムを貼る。
- 枕元にスリッパを置いておく。



【家具等の転倒・落下物対策】

- 固定器具で家具、家電製品を固定する。
- 扉の開閉を防ぐ器具を付ける。
- 家具の中には、下に重い物、上に軽いものを置く。
- 照明器具は、鎖と金具を使って固定する。
- 家具等が転倒する恐れのある場所で寝ない。

● 地震から身を守る行動 ●

【屋内にいる場合】

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難してください。
- あわてて外に飛び出さないでください。
- 避難する際は、ブレーカーを切ってください。

【屋外にいる場合】

- ブロック塀の倒壊などに注意してください。
- 看板や割れたガラスの落下に注意してください。
- 丈夫なビルのそばであれば、ビルの中に避難してください。

地震ハザードマップを確認